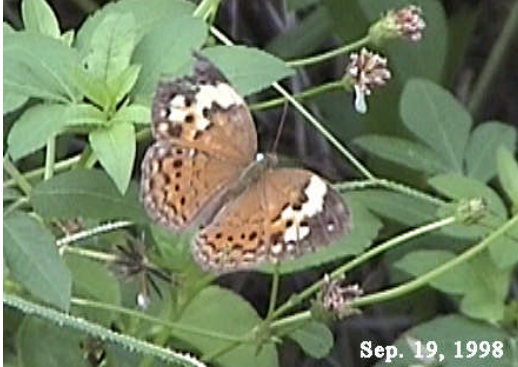


初の出会いは西表島月が浜 (Sep. 19, 1998)：元の小道にもどって先に進むと 100m も行かないうちに浜辺に出てしまう。小道横に空き地があって枝先に新芽をつけた樹の先端に、オキナワビロードセセリがテリトリーを張っている。この小型の蝶の動きを Video で追うがすばしっこくて絵にならない。と、小道の反対側の植物群にふわりとオレンジの蝶が舞い降りてくる。台湾キマダラだ。こんなにも穏やかな飛翔だとは思っていなかった。ゆっくりと飛翔にあわせてネットイン。きわめて新鮮な個体で、予想していたよりはオレンジが濃くてきれいだ。



この蝶が触れるように飛んだ未知の植物をよく観察すると食樹のトゲイヌツゲだ。若葉に食痕のある小枝もあるけれど幼虫はみつからない。卵も産みつけられた形跡はない。本道にもどる小道でヤエヤマムラサキが飛び出しセンダングサで求蜜を始める。Video で記録を撮っていたら、いつのまにか左手指に小さなカミキリムシが止まっている。名前はわからない。

Sep. 18, 1999：西表島月が浜。日帰りで白浜地区まで足をのばす計画なので、次に台湾キマダラを求めて浦内に向かう。途中、西表島ではかなりの確率でマルバネルリマダラがみられたという高那地区に着いた頃に昼食タイムとなる。車中でパンとお茶という簡単な昼食をとりながらマルバネルリマダラが出てきてくれたらなあ、との思いだけが募る。結局クロアゲハやヤエヤマカラスアゲハ以外にチョウの姿を見ることなく船浦，上原地区を経て浦内へと進む。さっそく月が浜バス停あたりで台湾キマダラが舞う。昨年多くの個体をみた小道に入ると複数頭がシロノセンダングサ花上で競って吸蜜しており、金子先生が Video でねらう。ここでも生きたチョウ

のいい映像を撮るためにはチョウと仲良くなることが何よりも大切だという心構えを教わる。チョウは危害を加える相手ではないと分かれると、悠然とした動きでいくらかもこちらの希望するポーズをとってくれるというわけ。さらにはクローズアップレンズの能力も生かして、先生の映像は実に迫力がある。

